

国語科学習指導案

指導者 白藤喜彦

- 1 日 時 令和6年 11月 7日(木) 第5校時
- 2 学 級 第3学年 8名
- 3 単 元 名 ねえ、聞いて！私たちが調べた食べ物の大へんしん！！
 教材名 「すがたをかえる大豆」(読むこと)
 「食べ物のひみつを教えます」(書くこと)

4 単元目標

- ◎比較や分類のしかた、辞書の使い方を理解し使うことができる。 [知識及び技能] (2)イ
- 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。
 [知識及び技能] (3)オ
- ◎書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。 [思考力、判断力、表現力等] B(1)イ
- ◎目的を意識して、中心となる語や文を見付けることができる。
 [思考力、判断力、表現力等] C(1)ウ
- 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
 [学びに向かう力、人間性等]

5 単元で取り上げる言語活動について

言語活動について	<p>自分が興味をもった食べ物について調べて、分かったことなどをお家の人に報告する文章として、『食べ物へんしんブック』にまとめて書く。</p> <p>関連：[思考力・判断力・表現力等] B(1)イ、C(1)ウ</p>
特徴	<p>食べ物について書かれた本を読み、『食べ物へんしんブック』(調査報告文)を作る。『食べ物へんしんブック』は、初め(調査目的・調査方法)・中(調べたこと、分かったこと、思ったこと)・終わり(考えたこと、おうちのに人に伝えたい思い)の構成で書く。</p>
単元目標との繋がり	<p>『食べ物へんしんブック』を作るという目的を明確にして、教材文を読むことで、「目的を意識して、中心となる語や文を見付ける」ことを実現できる。</p> <p>『食べ物へんしんブック』を作る際には、自分が伝えたい食べ物を一つ選び、初め・中・終わりの組み立てを考えることで、「書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくる」ことを実現できる。また、中で述べる事例の順などを工夫することで、「段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考える」ことを確実に実現できる。</p> <p>[思考力、判断力、表現力等] B(1)イ、C(1)ウ</p>

魚が おいしく へんしん

白藤 喜彦 作



ぼくは、お酒を飲みながら、魚を食べるのが大好きです。そこで、おくさんに魚がおいしくへんしんしたすがたをつたえて、ばんごはんに出してもらおうと考えました。

本を使って調べ、ぼくが、とくに食べたい食品を「食べ物へんしんブック」に書きました。



まず1番食べたいのは、おさしみです。おさしみは、魚をさばいてかわやほねをとり、ひと口大に切ったべます。有田市では、たちうおをおさしみで食べることもあるそうです。さしみにするときは、うすいはのほうちょうを使うそうです。ほうちょうを使い分けているなんて、おどろきました。



つぎに、ひもです。ほして魚の水分をぬくと、ひものになります。そのままほしたり、しおやみりんで味つけてからほしたりするなど、いろいろなほし方があります。いわしの丸ほしは、ほねまで食べられるのでカルシウムもとることができるそうです。カルシウムをとれるので、えいようがしっかりとれると思いました。



また、ねりものも食べたいです。生の魚をすりつぶして、すり身にしてかこうします。ねりものには、ちくわやさつまあげ、かまぼこなどがあります。有田市では、たちうおで作られた「ほねく」が有名です。ねりものは日持ちするので、買っておいでけると、好きなときに食べられるのでうれしいです。



このように、魚はいろいろなすがたにへんしんして、おいしい食品になっていることがわかりました。いろいろなしゅるいのねりものを食べてみたいです。魚がへんしんした食品が、ばんごはんに出てくると、家事をいつもよりてきばきががんばります!!

6 単元について

(1) 単元構成について

本単元は、教材「すがたをかえる大豆」（読むこと）と「食べ物のひみつを教えます」（書くこと）を組み合わせた複合単元である。食べ物の加工について書かれた本を読み、分かったことなどをお家の人に報告する文章として『食べ物へんしんブック』にまとめて書く言語活動を設定している。『食べ物へんしんブック』は、「初め（調査の目的と方法）」－「中（調べたことや思ったこと）」－「終わり（考えたことやお家の人に伝えたい思い）」といった構成である。

教材「すがたをかえる大豆」（読むこと）は、全体が「初め」「中」「終わり」で組み立てられ、「中」は大豆をおいしく食べるための工夫を五つの例で説明した、内容を捉えやすい構成の文章である。例に挙げられている大豆食品は日常的に食べる機会が多い物であり、児童にとっても身近な食べ物の一つである。ただ、大豆の加工食品は、見た目から想像できないものも多く、その意味では、児童に意外性をもって知る喜びを与える内容であろう。筆者は、そうしたことをねらい、事例の順序を意図的に工夫して配列している。筆者が読み手に分かりやすいように、どのように工夫して書いてあるかを読み取っていくのに適した教材であるといえる。

「食べ物のひみつを教えます」（書くこと）は、「すがたをかえる大豆」で学習したことをいかして、お家の人に伝えたい食べ物の加工品について調べ、工夫して書くことをねらいとしている。光村図書出版の教科書に示された作例は、解説文として書かれているが、今回は調査報告文としてまとめる。

単元の学習に入るまでに、「食べ物のひみつ発見コーナー」と題し、並行読書の本を置くコーナーを作る。

第1次では、教師が作成したゴールモデルを使って、子供たちに読み聞かせを通して、単元の見直しをもち、『食べ物へんしんブック』に書きたい食べ物を選ぶ。導入の際には、普段食べている給食の献立をもとに、食品が何からできているか考える。そして、食べ物へんしんクイズを作ったり解いたりして、身の回りの食品が様々な食材からできていることに気づく。その後、教師の作成したゴールモデルを使った読み聞かせや単元マップを通して、単元の見直しをもつ。第2時の後、家庭学習や読書朝集などの時間を活用して並行読書をする。1週間程度空けて、第3時を行い、自分が『食べ物へんしんブック』に書きたい食べ物を選び、加工品の例を見つける。

第2次では、『食べ物へんしんブック』を作るために、自分が選んだ食べ物について書かれた本を読み、情報を集める。また、教材「すがたをかえる大豆」を読み、調査報告文を書く際にいかしたい工夫を見つける。学習の流れとして、「自分が選んだ本から必要な情報を集める→「すがたをかえる大豆」を読み、書き方を学ぶ→『食べ物へんしんブック』を書く」といったサイクルを2回行う。

第3次までに、お家の人に読み聞かせを行う。その後、友達同士で読み聞かせを行い、単元の学習を繰り返す。

【ブックリスト】

1	たべもののひみつ① 大豆	1 0	すがたをかえる食べもの③ 麦がへんしん!
2	たべもののひみつ② 米	1 1	すがたをかえる食べもの④ 牛乳がへんしん!
3	たべもののひみつ③ 麦	1 2	すがたをかえる食べもの⑤ とうもろこしがへんしん!
4	たべもののひみつ④ 牛乳	1 3	すがたをかえる食べもの⑥ いもがへんしん!
5	たべもののひみつ⑤ とうもろこし	1 4	すがたをかえる食べもの⑦ 魚がへんしん!
6	たべもののひみつ⑥ 魚	1 5	食べ物のひみつを教えます 大豆・米
7	たべもののひみつ⑦ いも	1 6	食べ物のひみつを教えます 牛乳・魚
8	すがたをかえる食べもの① 大豆がへんしん!	1 7	食べ物のひみつを教えます 麦・とうもろこし・いも
9	すがたをかえる食べもの② 米がへんしん!		

(2) 児童について

本学級の児童は、一生懸命学習に取り組み、タブレット端末を積極的に活用しながら学ぶことができている。また、友達や教師の支援を受けながら最後までやり切ることができる児童が多い。しかし、すぐに答えを誰かに求め、一人で粘り強く考えたり、学び方を工夫したりしながら学習することが難しい。また、学力差が大きく、理解できた児童だけで授業が展開されてしまうこともあった。さらに、児童数が8人と少人数であるため、学びの広がりや深まりにも課題が見られる。

そこで、様々な教科において、児童が学び方を選択したり、ペア学習やグループ学習の目的や方法を明確に示したりしながら学習してきた。2学期に入り、学び方を自分なりに工夫したり、友達の考えを自分の考えにいかそうとしたりする姿が見られるようになってきた。

読書においては、読み聞かせを楽しみにしていたり、休憩時間に図書室に通い、借りた本を家で読んで

きたりと、普段から読書に親しむことができている。

「書くこと」においては、1学期に「仕事のくふう、見つけたよ」の単元で、調査報告文を書く経験をしている。モデル文を参考にすることはあるが、自分にとって必要な言葉を見つけ出し、活用することができなかった。また、調べたことを自分の言葉で書くことにも課題が見られた。

「読むこと」においては、「文様/こまを楽しむ」の単元で、「初め」「中」「終わり」といった文章構成を捉え、段落相互の関係に着目しながら読むことや、「中」の事例の述べ方に注意して読むことを学んでいる。その際、「マイベストこまを1年生に紹介しよう」という言語活動を設定した。相手と教材文を読む目的を明確にすることで、主体的に学習を進めることができた。しかし、叙述をもとに考えるという点においては、まだまだ課題が見られる。

(3) 言語活動の充実に向けた港小の取組

【4 STANDARD】（「読むこと」の授業を行う際に、必ず大切にしたい4つのこと）

	STANDARD	概要
1	指導事項チェック	学習指導要領解説や指導事項チェックシートを活用し、指導事項を確認し、系統性を意識しながら、教材研究を行う。
2	ゴールモデルの共有	単元の導入時に、児童とゴールモデルを共有し、単元の見通しをもたせる。
3	単元のめあての共有	単元の導入時に、ゴールモデルと共に、単元のめあてを共有し、単元の目標を理解させる。
4	単元計画の共有	ゴールモデルや単元のめあてと共に、単元計画を共有し、単元の見通しをもたせる。

【7 CHALLENGE】（単元や児童の実態、担任の思いによって、選択しながら大切にしたい7つのこと）

	CHALLENGE	概要
1	単元計画の充実	カリキュラム・マネジメントや単元計画の立て方の工夫など、単元目標を達成するために、効果的な単元構成を行う。
2	目的・必然性の設定	単元のゴールとして、学級外の相手に発表するなど、目的や必然性をもたせる。
3	読書活動の充実	学校図書館の活用・図書館司書との連携・並行読書等を通して、多くの本と出会い、言語能力の育成を図る。
4	交流の場の設定	自分の思いや考えを伝え、学びあえる児童の育成を目指し、目的をもって、交流の場を設定する。
5	タブレット端末の活用	実践を共有しながら、つきたい力をつけるため、効果的な活用方法を工夫していく。
6	各学年オリジナルチャレンジ	言語活動を充実させるため、各学年の実態や発達段階に応じた取り組みにチャレンジする。
7	実践の積み上げ	単元計画や板書画像、並行読書リスト、ゴールモデル、ワークシートなどを残し、今後の授業改善にいかす。

(4) 指導について

第一次では、教師がゴールモデルや単元のめあてを提示し、児童が単元の学習の見通しをもてるようにする。これまでも児童にとって魅力的な単元だと感じられるように導入を大切にしてきた。【CHALLENGE 6】今回は、第1時は授業参観日に行う。まず、給食の献立や普段の食事によく使われている加工品が何からできているか予想させ、教師が作成した「食べものへんしんクイズ」を解く。その後、お家の人と一緒に Google スライドを使って簡単な「食べものへんしんクイズ」を作り、問題を出し合う。クイズを作ることで、加工品について調べる必然性が生まれ、興味をもつきっかけとしたい。第1時の最後に、教師が作った『食べ物へんしんブック』を使って、実際にお家の人にするように読み聞かせをすることで、児童の興味関心を高め、わたしも作りたいという思いをもたせたい。【STANDARD 2・3】また、今回は、単元の最後に、自分が作った『食べ物へんしんブック』をお家の人に読み聞かせをする。導入の際に、授業を参観してもらいお家の人が学習内容を知ること、家庭で話題として挙がるのが考えられ、児童の意欲向上やモチベーション維持に繋げたい。さらに、児童にとって最も近い存在の人を相手にするので、より相手意識をもちながら学習を進められると考える。【CHALLENGE 2】第2時では、単元計画を立てる。その際、『食べ物へんしんブック』を作るためには、どんなことを学ぶ必要があるか、1学期の調査報告文を書いた経験やゴールモデルをもとに考えさせたい。第2時の後は、1週間程度空けて、第3時を行う。単元の見通しをもたせた後、並行読書の時間を十分設けることで、目的をもちながら多くの本を読むことができる。多くの本を読むことで、自分が「調べたい!」、「お家の人に伝えたい!」と思う食べ物を選ぶことができると考えている。その際、誰がどの本を読んだか、どの本に興味を示しているかを児童がお互いに把握できるようにマトリックス表を掲示する。【CHALLENGE 3】第3時では、一度『食べ物へんしんブック』を書かせてみる。そうすることで、自分が書き方で分からないことや調べることを明確にさせ、これからどんなことを学ぶ必要があるか、実感させたい。また、単元を進めていく中でも、どう書いたらよいか分からないことを書き留めておき、第9時での工夫を見つける観点にさせる。

【STANDARD 4】

第二次では、《自分が選んだ本から必要な情報を集める→「すがたをかえる大豆」を読み、書き方を学ぶ→『食べ物へんしんブック』を書く》といったサイクルを大切にする。まずは、自分が伝えたいことについて十分情報を集めた上で教材文を読ませる。そうすることで、『食べ物へんしんブック』を作るための書き方を学ぶという教材文を読む目的が明確になる。さらに、教材文を読んだ次の時間に書く機会を設定することで、より効果的に教材文で学んだことをいかすことができると考えている。【CHALLENGE 1】また、ペア学習を効果的に取り入れる。様々な場面で友達との対話を通して、考えの形成を図る。

【CHALLENGE 4】その際、必要に応じて、教師が児童と同じ立場でペア活動に参加し対話することで、学びの広がりや深まりを促したい。

情報を集める際には、自分が選んだ本に付箋を貼らせる。付箋の色を変えながら貼ったり、付箋にメモしたりすることで、情報を整理しながら集める力をつけさせたい。また、ペア学習を取り入れて、集めた情報を伝えたり、調べる内容を相談したりするなど、対話を通して考えを広げ、より詳しい情報を集めさせたい。さらに調べて分かったことを伝えることで、内容をより理解し、自分の言葉で書くことに繋がると考えている。

教材文を読む際には、『食べ物へんしんブック』にいかしたい工夫を見つけるという目的を明確にす

る。本時では、『食べ物へんしんブック』を書くときにいかしたい、書き表し方の工夫を見つける。そのために、本時まで、十分に情報を集め、自分が伝えたいことを明確にしておく。また、自分が書き表し方で迷っていることや分からないことを書き留めておく。そうすることで、自分にとって必要な工夫お見つけることができ、書くときの手立てになると考える。自分がいかしたい工夫を明確にするために、ペア学習を取り入れる。いかしたい工夫を共有したり、迷っていることを相談したりすることで、自分に必要な工夫が見つけられると考えている。その際、教材文の叙述に線を引いたり、自分がこれまでに集めた資料を示したりしながら対話させたい。

『食べ物へんしんブック』は、Microsoft の Word を使うか、手書きするか、児童に選択させる。それぞれのメリット・デメリットを考えさせた上で、自分に合った方法を選択させたい。文章構成を考える際には、Canva のプレゼンテーションを活用させる。【CHALLENGE 5】Canva を活用することで、考えが共有しやすく、学びの広がり期待できると考えている。また、編集や修正の操作も容易である点も、Canva を使うメリットである。書く際には、教材文を読み学んだことやゴールモデルを活用して書かせる。ゴールモデルは内容ごとに色分けをして示し、情報を集める際に貼った付箋と対応させることで、書くときの手立てとしたい。活動内容や進度は、児童自身に決めさせる。一人で書く、途中経過を友達と読み合いアドバイスする、本を使ってさらに情報を集めるなど、自分に必要な学びを考えさせたい。

第三次では、児童同士で読み聞かせをして、相互評価と自己評価をさせる。読み合うことで、友達や自分の『食べ物へんしんブック』の良さに気づかせたい。また、お家の人に読み聞かせをしたことについてもふり返らせる。その際、単元のめあてや単元を通して学んだことなどを観点として示し、評価やふり返りの内容を焦点化したい。

この単元を通して、新たなことに興味をもち、調べ、伝える楽しさや喜びを感じほしい。そのためには、たくさん情報を集めたり、書き方を学び、工夫したりすることが大切であることを実感させたい。そして、この経験が国語科だけでなく、様々な教科の学習や子供たちの日々の生活に繋がってほしい。

7 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比較や分類のしかた、辞書の使い方を理解し使っている。 (2) イ	①「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。 B (1) イ	① 目的を意識して、粘り強く中心となる語や文を見つけたり、それらを明確にして文章の構成を考えたりし、学習の見通しをもって筆者の説明の工夫をいかした文章を書こうとしている。
②幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。 (3) オ	②「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けている。 C (1) ウ	

8 指導計画（全13時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準 評価方法
1	1	<p>○給食の献立から、普段食べているものが何からできているか考え、食べ物へんしんクイズをする。</p> <p>○お家の人と一緒に食べ物へんしんクイズを作り、問題を出し合う。</p> <p>○教師が作成したゴールモデルを使った読み聞かせを聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『食べ物へんしんブック』を書いて、お家の人に伝えたいと思える導入になるようにする。 ・ゴールを明確に示し、単元の見通しをもたせる。 	<p>□様々な食べ物の変身について書かれた本を読み、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。</p> <p>[知識・技能②] (観察・ノート・選んだ本)</p>
	2	<p>○単元計画を立てる。</p> <p>○食べ物について書かれた本を読む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元計画を共有する際には、「単元マップ」を示し、単元構成が視覚的に分かりやすいようにする。 ・本を読む際には、読む目的を明確する。 	<p>□『食べ物へんしんブック』にいかしたい書き方の工夫を見つけるといった目的をもち、「すがたをかえる大豆」を読み、中心となる語や文を見つけている。</p> <p>[思考・判断・表現②] (発言・教科書・ワークシート・食べ物へんしんブック)</p>
	3	<p>○『食べ物へんしんブック』に書く食べ物を選び、加工品の例を見つける。</p> <p>○『食べ物へんしんブック』を書いてみて、書き方で分からないことや難しそうなことを話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が作成したゴールモデルや単元のめあてを再度示し、単元のゴールを明確にした上で、食べ物を選ばせる。 	<p>□調べたことを比較・分類したり、分からない言葉を辞書で調べたりしている。</p> <p>[知識・技能①] (観察・選んだ本・食べ物へんしんブック)</p>
2	4	<p>○教材文を読み、驚いたことや調べたいこと、知りたいことを見付ける。</p> <p>○図鑑や事典、国語辞典を使って調べる。</p> <p>○同じ視点で、自分が選んだ本を読む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が選んだ本を読む際にいかすことを意識させながら、教材文を読み調べさせる。 	<p>□自分が興味をもったことやお家の人に伝えたいことを調べるという目的をもち、自分が選んだ本を読み、中心となる語や文を見</p>

	5	○『食べ物へんしんブック』を作るために、教材文を読み、自分の『食べ物へんしんブック』にいかしたい文章の組み立ての工夫をみつける。	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項をいかして、文章構成を捉えさせる。 ・『食べ物へんしんブック』にいかす意識を常にもたせる。 	<p>つけている。</p> <p>[思考・判断・表現②] (発言・選んだ本・食べ物へんしんブック)</p>
	6	○『食べ物へんしんブック』の組み立てを考える。 ○初め（調査目的と調査方法）を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・Canva を使って、組み立てを考えさせる。 ・教師が作成したゴールモデルを参考にさせる。 	□『食べ物へんしんブック』を書くときに、書く内容の中心を明確にし、加工品ごとに段落を分けたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。
	7 8	○自分が選んだ食べ物について書かれた本を読み、変身した食品や疑問、知りたいことを見付け、詳しく調べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・第4時の学びを想起させ、調べさせる。 ・必要に応じて、積極的にペア学習を取り入れ、調べるべきことや集めた情報を明確にさせる。 	[思考・判断・表現①] (Canva・食べ物へんしんブック)
	9 (本時)	○『食べ物へんしんブック』を作るために、教材文を読み、自分の「食べ物へんしんブック」にいかしたい表現の工夫を見つける。	・これまで書き留めておいたことや教師が提示した視点をもとに、工夫を見つけさせる。	□『食べ物へんしんブック』を作るという目的を意識して、粘り強く中心となる語や文を見つけたり、それらを明確にして文章の構成を考えたりし、学習の見通しをもって筆者の説明の工夫をいかした文章を書こうとしている。
	10 11 12	○これまで集めた情報をもとに、中（調べたこと、分かったこと、思ったこと）を書く。 ○終わり（考えたこと、おうちのの人に伝えたい思い）を書く。	・教材文を読み学んだことやゴールモデルを活用して書かせる。	[主体的に学習に取り組む態度] (観察・ノート・ワークシート・食べ物へんしんブック・Canva)
家庭学習		○おうちの人に読み聞かせをする。	・事前に練習をさせる。	

3	13	<p>○『食べ物へんしんブック』を読み合う。</p> <p>○単元のふり返しを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お家の人に読み聞かせしたこともふり返らせる。 ・単元のめあてやふり返りの観点をもとにふり返らせる。 	
---	----	--	---	--

9 本時について (9 / 13)

(1) 本時の目標

自分の『食べ物へんしんブック』にいかしたい書き方の工夫を見つけるという目的を意識して、筆者の例示の工夫など、中心となる語や文を見つけることができる。

(2) 本時の評価規準

自分の『食べ物へんしんブック』にいかしたい書き方の工夫を見つけるという目的を意識して、筆者の例示の工夫など、中心となる語や文を見つけている。

[思考・判断・表現②] C (1) ウ

(3) 展開

○学習活動	●指導上の留意点	□評価 【評価の観点】 (評価方法)
<p>① 単元のめあてや単元マップを確認し、本時のめあてを確かめる。</p>	<p>●掲示物等を活用し、視覚的にこれまで学んできたことや単元のゴール、本時の位置づけをおさえる。</p>	
<p>自分の『食べ物へんしんブック』にいかしたい、国分さんの書き方の工夫を見つけよう。</p>		
<p>② これまでに見付けた材料（図鑑の資料等）を振り返り、自分が工夫したいけれどどう書こうか迷っていることを確かめる。 一人</p>	<p>●学習を進める中で、書き方で分からないことを書き留めていたワークシートやCanvaを見て考えさせる。</p>	
<p>③ ②で迷っていることを踏まえて、自分の『食べ物へんしんブック』にいかせそうな筆者の工夫を見付けてみる。 一人</p>	<p>●見つけ方が分からない児童には、教材文のどこに着目すればよいか、考えさせる。</p>	
<p>④ 自分がいかしたい工夫を明らかにする。 ペア</p>	<p>●自分の『食べ物へんしんブック』にいかしたい工夫を明確にするために、複数の児童と交流させる。 ●交流の手順をおさえる。 ①ペアを組んだら空いている席に横並びに座る。 ②どちらから始めるか声をかけあって決め、真ん中に教科書や資料を置いて、交流を始める。 ③聞き手は、「いかしたい工夫を見つけた?」「どんなことを伝えたいん?」「どの表現を使うん?」「どの文章の</p>	<p>□自分の『食べ物へんしんブック』にいかしたい書き方の工夫を見つけるという目的を意識して、筆者の例示の工夫など、中心となる語や文を見つけている。 【思考・判断・表現②】 (発言・教科書・選んだ本・ワークシート)</p>

<p>⑤ 本時の学習のまとめ、ふり返る。</p>	<p>こと?」「どんなことを迷ってるん?」などと声をかけ、教材文の叙述を読んだり、資料を見せたりしながら対話する。</p> <p>④終わったら、再度相手を見つける。</p> <p>●必要に応じて書き方を示す。</p> <p>●次時の見通しをもたせる。</p>	
--------------------------	---	--

(4) 具体的な目指す児童の姿

<p>自分の『食べ物へんしんブック』では、れいをびっくりしたじゅんばんで書きたいから、国分さんの表現の「いちばん、次に、また」という書き方を取り入れる。</p>
<p>自分の『食べ物へんしんブック』では、ねりもののしゅるいがたくさんあることを書きたいから、国分さんの「に豆には、黒、茶、白など、いろいろな色の大豆が使われます」みたいな書き方を取り入れる。</p>